

## 2. 働きやすい環境づくり

# 農福連携の進め方

## 1. 工程細分化 作業アセスメント表

- できる仕事の見つけ方・伸ばし方

## 2. 現場の構造化

- 働きやすい現場づくり

## 3. 採用・実習・連携

- 具体的な進め方

## 支援における3つのポイント

1. 作業工程の細分化と導入時の丁寧な作業説明
2. 視覚的にわかりやすい作業指示と就業環境整備
3. 一人ひとりの特性に合わせた作業のペース配分と合理的配慮

# 支援の工夫

## ◎ 雑草取り @とうもろこし畑



【工夫】・マルチと呼ばれる黒いビニールシートで苗の根元を覆う

【指示】・マルチの外側の草(雑草)を取る

【効果】・雑草とまちがって苗を抜いてしまわない:視覚的構造化

【特徴】・通常、農家ではマルチを貼ることはない

・除草剤を使わないので栽培期間中無農薬→卸値UP

# 支援の工夫

## ◎ 追肥 @かぼちゃ畑



- 【工夫】 ・ペットボトルの蓋に穴をあけて振り回せば肥料が出る
- 【指示】 ・ペットボトルを適当に振って歩きながら肥料を撒く
- 【効果】 ・それほど繊細な作業ではなく、楽しみながら実施できる
- 【特徴】 ・機械が入れない幅のため、作業に時間と手間がかかっていた

# 支援の工夫

## ◎ 選別作業 @じゃがいも選別機



- 【工夫】 ・作業椅子に手すりを付ける
- 【効果】 ・てんかん発作のある利用者に万が一発作がなくても倒れない
- 【特徴】 ・座りながら作業でき、万が一発作が起きてもケガ等のリスクが少ない

# 支援の工夫

## ◎ 商品シール貼り治具 @米



【工夫】・シール貼りガイド(治具)の作成

【指示】・袋をセットし、丸い穴のガイドに合わせてシールを貼っていく

【特徴】・シール自体を丸のデザインにすることで、ゆがみやズレが目立ちにくい(失敗作が減る)



# 支援の工夫

## ◎ 育苗～定植 @かぼちゃ苗・とうもろこし苗



- 【工夫】 ・(定植)苗を取り出すときはフォーク等を使用すると簡単に取り出せる
- 【指示】 ・(育苗)穴に1か所ずつ土を入れる →そこに1粒ずつ種を入れる  
・(定植)マルチに定植する穴をあける →穴に1つずつ苗を入れていく
- 【特徴】 ・穴に何かを入れるといった作業は、生活介護事業所で自立課題でやっているものに近い=重い障害の方でも実施可能  
・特別な物品でなく、100均等の道具でも治具になる



# 労働力の代替

## ◎ 苗植え @かぼちゃ畑



### 【特徴】

- ・5千株をすべて手植え
- ・かぼちゃは機械で管理できない(植え、種まき、収穫)ので、高齢化した農家ではやりたがらない作物
- ・町の推奨作物⇔農家の高齢化により作付農家の減少 → 減少した労働力の代替

# 労働力の代替

## ◎ 清流確保 @用水路



### 【特徴】

- ・用水路に溜まる藻を除去する作業
  - ・利用者は水遊びを好む方が多いので、除去作業は楽しみながら作業できる
  - ・地域の人には他の農作業が忙しく、なかなか藻の除去ができない
- 農業者の負担軽減、地域との交流・貢献

## 2. 働きやすい環境づくり

令和3年度農林水産省  
農山漁村振興交付金事業

「農福連携における作業分担等のHow to動画制作及び  
高収益品目の農福連携の実態に関する調査・分析」